

加えて、ここが肝腎だが、「自動車利用者の盲点・弱点」を明確にし、ピンチをチャンスに変えていくことにある。



それでは、「自動車利用者の盲点・弱点」とは何だろうか。

その一つはーピンポイントで目的地にたどり着けるといふ自動車の便利さに馴らされてしまったために、目的地や、目的地周辺の良さを、じっくり、ゆっくりと味わう機会を放棄してしまいがち、ということだ。

確かに、慌てふためいて、ピンポイントで、あちこち走り回ることを欲する旅行者もあるかも知れない。

それはそれで価値ある旅であるのだろうが、しかしそれでは本当の伊豆の良さは味わえない。

何故なら、伊豆の景観・景色は、一つの景勝地としてくくられる場所であっても、変化にあふれているのであって、例えば伊東の城ヶ崎海岸のように、眺める場所や視点によって、複雑に入りこんだ岩場や海岸線の様々な表情を楽しめるのだから、そこを歩いて見て回るのでなければ、せっかくのビュースポットをたっぷりと味わったとは言えない。

それに、自らの足で歩けば、その土地の自然にも、歴史や文化を育んだ背景にも、直接肌で触れ合えるし、第一歩く速度なら、風や、草花や樹木の匂いまでもが感じられ、いわば、景色や景観を「見物」するのではな



城ヶ崎北端の迫力満点の人気スポット・門脇吊り橋



城ヶ崎の遊歩道沿いに見つけたタブノキの実(左)と、オニドコロの花(右)



まっすぐに伸びる旧街道を、新道・バイパス道路が巡っている
(三島市山中新田)

くて、「体感」ができる。



さて、もう一つの「自動車利用者の盲点・弱点」とは、駐車場が要るということだ。

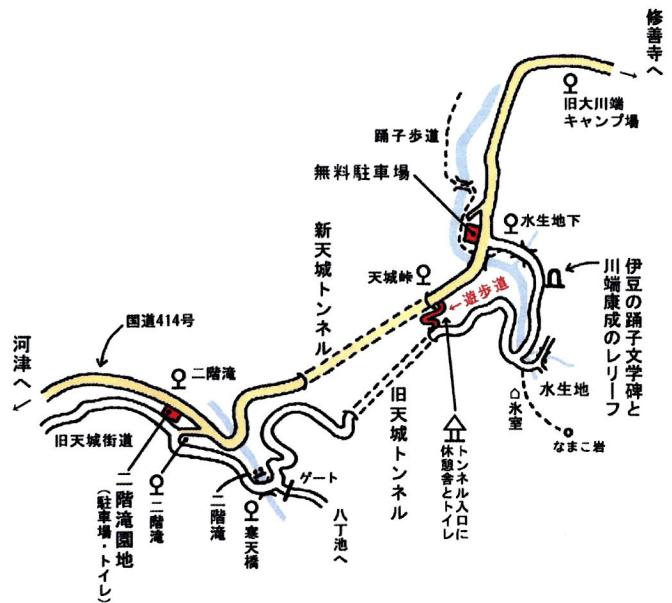
目的地について、まずは車の置き場所を捜さなくてはならないし、最終的にそこに戻らなければならないとなれば、行動範囲も制限される。

車なんか放っぼり出して、A地点からB地点へ、せっかく歩きたいと思っても、車がB点まで来て待っていてくれるわけではないから、A点へ戻らなくてはならないという、便利なようでいて、便利でないという「盲点・弱点」がある。

その点、奥入瀬のように、道路と溪流が平行して走っていることを利用し、途中で降りてもらって、先へ行って待っててくれる観光バス・観光ルートがあれば便利だが、伊豆にはそのような配慮がない。

以前「山中城に『道の駅・東海道新接待茶屋』を」の提言でも触れた通り、箱根の山中城跡付近は、昔ながらの石畳が残されている旧街道と、国道1号線が8の字に交差していて、上からも下からも、途中で降りて歩くには最適の、歴史的、かつ、富士山や駿河湾が一望できる日本一のビューポイントだが、バスを停車する場所さえ造られていない。

もともと、――「歩いて



旧天城トンネルはマイカーでの通行が可能だが、それではここに来た意味がない



新天城トンネル湯ヶ島口の停車スペース
(左に旧天城トンネルへの遊歩道登り口がある)



「井上靖旧邸」・道の駅「天城越え」横の踊子歩道(左)と標識(右)

らおう」という思想がないのだから、仕方がない。

さらに言えば、天城湯ヶ島の旧天城トンネルは、川端康成の「伊豆の踊り子」の舞台として、余りにも有名だが、修善寺方面から来て、水生地



整備の進む三島の水辺(源兵衛川(左)・水の苑緑地(右))

下の無料駐車場にバスを止め、旧天城トンネルまで踊子歩道を歩き、遊歩道(伊豆山稜線歩道)を下に降りれば新天城トンネルの入り口に出るというのに、そこには申し訳程度の駐車スペースしかないから、元の道を引き返して、駐車場に戻るしかない。

これは河津側から来ても同じで、A点からB点になら、かなり遠い距離でも歩いて楽しいが、A～B～Aとなるとつらい。

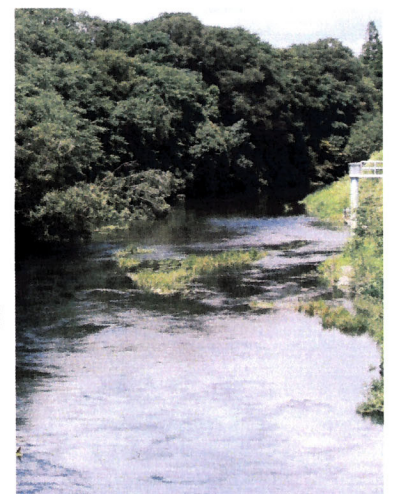
運転手のいるバスでさえこの始末だから、駐車場を見つけ、そこへ戻らなくてはならないマイカー利用者にとっては、行って、戻るとなれば、「歩く楽しみ」「見て回る喜び」は重々承知していても、どうしてもピンポイントで我慢しがちになってしまう。

そこを改革する、解決する、楽しんでもらう為には、「パーク&ウォーク」のルートを設定し、楽に自分の車に戻れるシステムを開発するしかない。

例えば、三島の水辺(楽寿園・白滝公園・源兵衛川・水の苑緑地)～佐野美術館(ミシマバイカモの里)～柿田川(清水町)、伊豆スカイライン富士箱根ランド入り口～函南原生林～原生の森公園、伊豆長岡の葛城山ロープウェー山頂～沼津の三津海岸や大仁の狩野川べり、修善寺総合会館～修善寺温泉・修禅寺～源範頼の墓、熱海のサンビーチ～起雲閣、伊東城ヶ崎海岸(北端～中央部～南端)、先にも例としてあげた旧天城トンネルに至る踊子歩道(浄蓮の滝～道の駅「天城越え」～滑沢溪谷～旧大川端キャンプ場～水生地下駐車場)等々、とにかく歩いて欲しい場所を選定し、駐車場の整備は勿論のこと、ルート上にしっかりとした「乗り降り専用」の停



ゴンゴンと湧き出る柿田川の水源地(上)と河川(下)



車・ピックアップスペースを確保する。

その上で、営業でも、シルバー・ボランティアでもよいが、「代行運転」で、車をA～Bへ持って行ってもらう。「代行運転」が、飲酒の為だけにあるのでは、もったいないシステムなのだから。

さらに、

――足の不自由に方の為には、「電動車イス」を用意しよう。

――また、B点に「レンタサイクル」を置いてA点に戻ってきてもらう手もあるし、B点まで迎えにいったりする方法もある。

どちらもA～B、B～Aに、小型のトラックやバンで移送できるから、無理なシステムではない。

◇ ◇ ◇

観光産業の長期低落に、いつまでも解決の糸口を見出せないこれからの伊豆ために、何とか優位を作ろう。

「道路後進地！」であることを嘆いてばかりいないで、せめて、気持ちよく歩いてもらうシステムを創ろう。

世をあげての「健康」ブームの中で、温泉が「のんびり、ゆったり」の「いやし」や「気分転換」には最適であるとしても、「ウェルネス（心身の健康）」ということになれば、温泉に浸かるだけでなく、適度な運動も必要だろう。

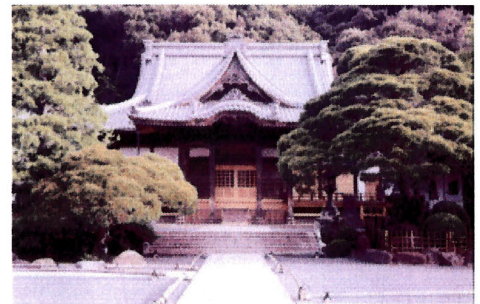
それも、家族揃って歩くとなれば、本人だけでなく、家族も健康になり、普段不足がちな子供との絆も深まって、環境・情操教育にもなるだろう。

歩いてもらえば、時間がかかって、伊豆での滞在時間は長くなるし、疲れて泊まることにもつながるだろう。

――伊豆地域再生・観光再生のために、伊豆地域全体で、「パーク&ウォーク（歩いてもらう）」をキーワードに、新たな取り組みを始めようではないか。



禁伐林として名高い函南原生林の最下部の原生の森公園



弘法大師の創建の古刹で、鎌倉2代將軍頼家が幽閉・暗殺された修禪寺（伊豆市修善寺）



熱海サンビーチに隣接するムーンテラス



大正ロマンを感じさせる和洋折衷の贅沢な旧別荘（旅館）で、文豪に愛された熱海の起雲閣